

うちゅうざんけんこんいん

宇宙山乾坤院の

たくじょうせん

卓杖泉

(緒川)

おがわ うちゅうざんけんこんいん 室町時代のなか
緒川にある宇宙山乾坤院は、

しよだいおがわじょうしゆ みずのさだもり
ろ、初代緒川城主の水野貞守によって開其され

とき さだもり とうこうじ かいざん ぎやくおう
ました。その時、貞守は、東光寺の開山、逆翁

そうじゆんぜんじ せんけい みずか ぶつでし あたら
宗順禅師を尊敬し、自らを仏弟子として、新

つく てら そうだん
しく造る寺について、いろいろと相談をかけま

した。

さだもり しろ で そうじゆんぜんじ
あるとき、貞守は、城を出て、宗順禅師とい

ちか やまある たの
つしよに、近くの山歩きを楽しんでおりました。

そうじゆんおししょう しろ りっぱ こんど
「のう、宗順和尚よ。城も立派になったし、今度

しろ まも てら た おも
は、城を守ってくれる寺を建てたいと思うが、

てきとう ばしよ
どこか適当な場所はなからうか。」

との とも やま
「はい、さきほどから殿のお供をしながら山を

ある
歩いておりますが、ちようどこのあたりが、山

ふか しず てら た てきとう いち
も深く静かで、寺を建てるのに適当な位置か

ぞん
と存じます。いかがでござりませうか。」

しろ
「なるほど、ここは、城からもさほど遠くはな

うえ さんぼう やま かく みなみ ひら よ
い上に、三方を山に囲まれ、南が開けた良い

ばしよ
場所だわい。」

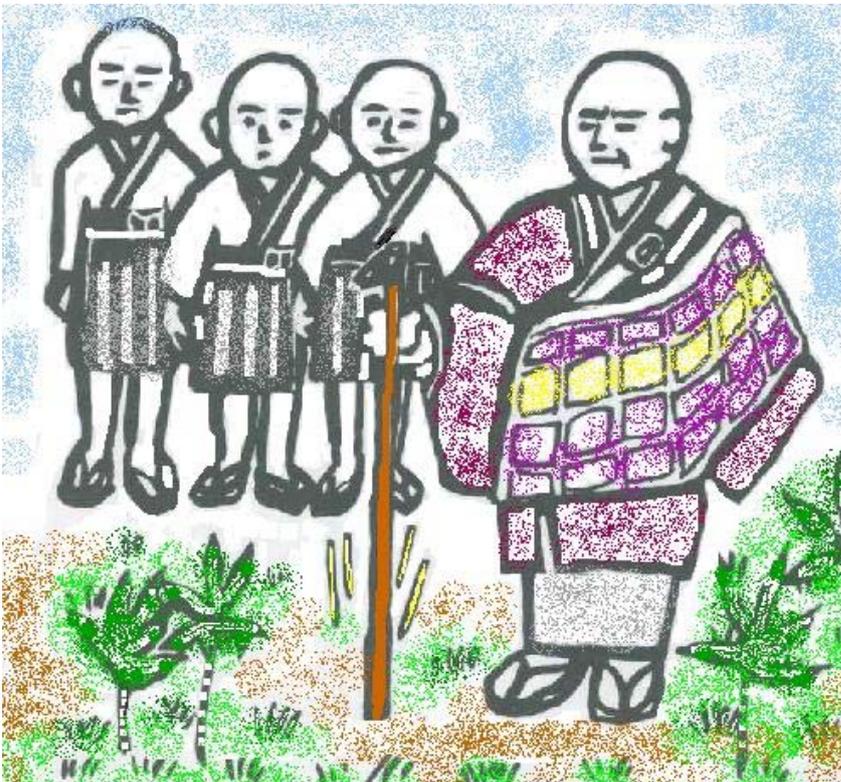
こうして、寺を建てる位置が決まると、今
度は、寺に名前をつけることになりました。ま
ず、貞守が、いろいろ考えたすえに言いました。

「ここは、ちようど城から乾（西北）と坤
（南西）の中間に当たる場所じゃ。どうだ、
乾坤院としては……………」

「乾坤院……………。乾坤は、天地を意味します。
雄大なすばらしい名です。それに対応して

山号は、宇宙山としては……………」

「なるほど、宇宙山乾坤院のう。これはいい名じ
や。果てしなく広がる天地宇宙のような大き



な寺を建てようではないか。」
こうして、立派な寺を建てることになりまし
た。

ある日、境内を散歩していた宗順は、西に山
が迫っている崖の下に来ると、そこで足を止め、
持っていたしゃく杖を立てました。そして、そ
こを掘らせたところ、美しい清水がこんこんと
わき出で、たちまち泉となり、お寺の仏前へ供
える水として使うようになり「卓杖泉」と名づ
けました。

いま、山門の南にある、橋のかかった放生池
の中に碑が建っていて、石のわくで囲ってある
ところが、それです。



▼
卓杖泉
たくじょうぜん